

# 現代中国語の「時制」の意味研究

加 藤 宏 紀

## 0. はじめに

本稿は現代中国語の時間体系の構成要素である「時制 (tenses)」を, Reichenbach(1974) の手法を適用して, 明らかにする。私は現代中国語の時間体系が「時相 (phases)」, 「時態 (aspects)」, 「時制」の三つの時間概念から構成されていると仮定している。この三つの時間概念はそれぞれがそれ自体でひとつの範疇を形成しつつ, 同時に相互に関連しあっている。したがって, 現代中国語の「時制」という時間範疇がどのように形成されているかを追求することは中国語の時間体系を明らかにするのに有効であると言える。

よく知られるように, 中国語には動詞の形態変化によって表される「時制」はない。つまり, 述語動詞とそれが要求する名詞成分 (主語や目的語) からなる単純な命題 (文) だけでは, その「時制」は確定しない。このため, 中国語の文の「時制」を確定するには, 文中に「発話時間 (speech time)」, 「出来事時間 (event time)」のほかに, 第三の「参照時間 (reference time)」が必要となる。Reichenbach の手法を適用すると, この「参照時間」を現代中国語の「時制」の中に明確に位置づけることができる。かくして, 現代中国語の「時制」は「発話時間」, 「参照時間」, 「出来事時間」という三つの時間の時間軸上における相対的位置関係として捉えられ, 明示的に表される。

## 1. 絶対時制と相対時制

Reichenbach(1974)は「発話時間」,「参照時間」,「出来事時間」を用いて英語の「時制」を定式化した。「発話時間」は文が発話された時点である。「参照時間」は「発話時間」のほかに基準となる時間である。「出来事時間」は命題で表される「出来事」が発生した時間である。中国語の文の「時制」はこの三つの時間の時間軸上における相対的位置関係によって確定する<sup>1</sup>。

「発話時間」は文が発話された時点と必ず一致するという意味で「絶対的」である。これに対し,「参照時間」は必ずしも文の発せられた時点と一致するわけではないので「相対的」である。よって,「発話時間」に対して定まる「時制」を「絶対時制 (absolute tense)」と呼び,「参照時間」に対して定まる「時制」を「相対時制 (relative tense)」と呼ぶ。

「絶対時制」は「過去」,「現在」,「未来」を確定する。すなわち,「発話時間」の前に「出来事時間」があれば「過去」であり,「発話時間」と「出来事時間」が重なれば「現在」であり,「発話時間」の後に「出来事時間」があれば「未来」である。一方,「相対時制」における「参照時間」と「出来事時間」との時間軸上の位置関係を「已然」,「単純」,「未然」と呼ぶ。「已然」は「出来事時間」が「参照時間」の前方に位置する関係を指す。「単純」は「出来事時間」と「参照時間」が重なる位置関係のことである。「未然」は「出来事時間」が「参照時間」の後方に位置する関係を指す。

本稿では,「絶対時制」と「相対時制」を組み合わせた結果を「時制構造」によって表示する。たとえば,「出来事時間」が「発話時間」に先行しかつ「出来事時間」が「参照時間」の後に位置する場合,それを「R—E—S」という「時制構造」で表示する(詳しくは第三章を参照)。この「R—E—S」という「時制構造」は,「未然過去」という「時制」を表す。なお,「時制構造」中の「R」は「参照時間」を,「E」は「出来事時間」を,「S」は「発

話時間」をそれぞれ表している。

## 2. 「時相」, 「時態」と「時制」のかかわり

本稿では、中国語の「時制」は「時相」, 「時態」と関連性を持ちつつ、時間体系の中に位置づけられている、との仮定に基づいて論を進めていく。そこで、中国語の文の「時制」がどのように確定するかを論じる前に、「時制」の「時相」および「時態」とのかかわりについて言及しよう。

### 2.1 「時相」と「時制」のかかわり

「時制」を確定する三つの時間のうち、「出来事時間」は「出来事 (events)」が発生する時間を指す。「出来事」はそれ単独では発生した時点を確認できない。よって「発話時間」と「参照時間」を用いて、その時点を示すのである。この「出来事時間」として表示される「出来事」の内容はどこで形成されるのだろうか？

「出来事」は「ひとまとまり」のものとして捉えることのできる動作行為のことで、次の二種類がある<sup>2</sup>。ひとつは、“死 (死ぬ)” や “丟 (なくす)” のように動作行為あるいは変化が瞬間的に達成される性質を表すものである。もうひとつは、動詞単独では理論上、その動作行為は永遠に持続するが、動詞以外の統語成分が意味上「自然の終結点」を明示することで動作行為が「ひとまとまり」になるものである。たとえば、“看懂 (見てわかる)” という動詞結果補語構造 (VR 構造) において、結果補語“懂 (わかる)” は動詞“看 (見る)” が表す理論上際限なく続く行為の結果を述べ、その「自然の終結点」を明示している。

「時相 (phases)」には「出来事」のほか、「状態 (states)」と「活動 (activities あるいは processes)」がある。つまり、「時相」は「出来事」を表す場合と、「非出来事」(状態や活動)を表す場合がある。そこで、「時相」を「充足した時相」と「未充足の時相」に分けると、「出来事」は「充足した時相」によっ

て表される、と言い換えることができる<sup>3</sup>。

このように、時間軸上に「出来事時間」として表示される「出来事」の内容は「時相」の中で形成される。ここに「時相」と「時制」のかかわりが見て取れる。

## 2.2 「時態」と「時制」のかかわり

「時態 (aspects)」は一般的に、「出来事内部の特定の段階におけるあり様を述べるもの」として定義づけられる (龚千炎 1995:44)。たとえば、“了 a” が表す「…してしまった」という「完了」，“过 a” が表す「…したことがある」という「過去の経験」，“着 a” が表す「…している」という「動作行為の結果の持続」などがそれである<sup>4</sup>。これらの諸要素から形成される「時態」という時間範疇が、中国語の時間体系において、「時制」とどのようにかかわっているのだろうか？

「時態」は「出来事」のあり様を述べるものなので、意味上「出来事」と結合している。すると、「出来事」には、「時態」と結合していない「出来事」と「時態」と結合した「出来事」の二種類があることになる。

まず「時態」と結合しない「出来事」と「時態」と結合した「出来事」との違いについて考えてみたい。「…してしまった」という「完了」を表す「時態」“了 a” を例にしよう。次の例 (1a) は動詞“抽 (吸う)”の行為対象“烟 (たばこ)”の数量が“三根”によって「三本」に限定されることにより、「時相」が充足し、“抽三根烟 (三本のたばこを吸う)”で「出来事」を表している。一方、(1b) は (1a) の動詞“抽”に「…してしまった」という意味の「完了」を表す“了 a” が付加し、意味上「時態」と結びついた「出来事」である。

(1) a. 老李抽三根烟。(李さんは三本のたばこを吸う。)

b. 老李抽了三根烟。(李さんは三本のたばこを吸った。)

この (1a) が表す「時態」と結合しない「出来事」は、“老李 (李さん)”のあらゆる時点での「たばこを三本吸う」という行為を述べている。これに対し、(1b) の「時態」と結びついた「出来事」はある時点における、個別の行為を述べている。このことは、(1a) と (1b) それぞれに「恒常性」を表す時間表現“每天 (毎日)”を付加して得られる (2a) と (2b) の違いから明かである。文頭の星印 (\*) は、その文が成立しないことを表す。

- (2) a. 老李每天都抽三根烟。(李さんは毎日三本のたばこを吸う。)  
 b. \* 老李每天都抽了三根烟。

以上の簡単な例から、充足した「時相」によって形成される「出来事」はその行為に共通する「性質 (property)」を表す「内包的出来事」であり、充足した「時相」と「時態」が結合した「出来事」は「内包的出来事」から個別的に現れた「外延的出来事」と言える。

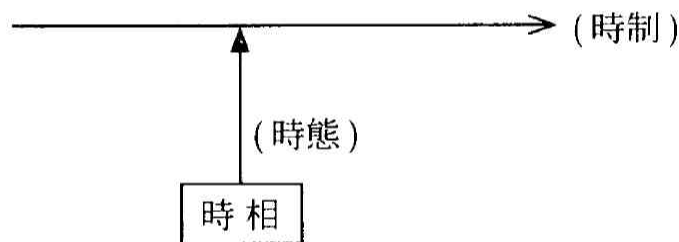
「時制」とのかかわりにおいて、「内包的出来事」と「外延的出来事」は決定的な違いを見せる。本稿では、「時制」を確定するには、「発話時間」、「参照時間」、「出来事時間」の三つの時間が必要であると主張している。この主張に基づくと、文中にはそれぞれ三つの時間に対応する表現が含まれていなければならない。先の (1a)(1b) には文そのものが表す「発話時間」と「充足した時相」が表す「出来事時間」しかない。そこで「参照時間」にあたる表現、たとえば時点を表す名詞“昨天 (昨日)”をそれらに挿入してみる。「参照時間」となる“昨天”を「内包的出来事」と結びつけた (3a) は不成立であるが、それを「外延的出来事」と結びつけた (3b) は成立する。

- (3) a. \* 老李昨天抽三根烟。  
 b. 老李昨天抽了三根烟。(李さんは昨日三本のたばこを吸った。)

このことから、「時制」とかかわる「出来事」は「内包的出来事」が「時態」と結びついた「外延的出来事」である、ということがわかる。つまり、中国語の時間体系において、「時態」は「時相」と「時制」を結びつける役割を果たしている、と言える。

上に述べた「時相」、「時態」、「時制」の時間体系における関連は、次のようなモデルによって表すことができる。次の(4)に示したモデルにおいて、左から右に向かう矢印は時間軸である。文字囲いされた「時相」は「充足した時相」を表している。そこから上にのびた矢印は「時態」を表し、「出来事」を時間軸の上に置く、すなわち「時相」を「時制」と結びつける。

#### (4) 現代中国語の時間体系のモデル



### 3. 九種類の「時制構造」と「時制」の確定

1で、中国語の「時制」は絶対時制と相対時制を組み合わせ得られる「時制構造」によって確定する、と述べた。絶対時制に三種類(過去・現在・未来)、相対時制に三種類(已然・単純・未然)あるので、両者を組み合わせ得られる「時制構造」およびそれによって確定する文の「時制」のタイプは九種類である。そこでここでは、実際の文からこの九種類の「時制構造」がどのように形成され、それぞれの文の「時制」が確定されるかを述べる。

次の文(5)の「時制」がどのように決定されるかを説明しよう。まず例を見られたい。

(5) 昨天我赶到他家时, 他却离开家好几天了。( 龚 1995:34)

(昨日私が彼の家に駆けつけたとき, 彼は家を離れて数日にもなっていた。)

「参照時間」は波線部(次頁)“昨天我赶到他家时(昨日私が彼の家に駆けつけたとき)”によって指示される。“昨天(昨日)”があることで、「発話時間」が「今日」であることがわかる。つまり「参照時間」は時間軸上「発話時間」の左側に配置される。「出来事時間」は“他离开家好几天了(彼は家を離れて数日にもなっていた)”によって表される。そこでは非持続的な行為を表す述語動詞“离开(家)((家を) 離れる)”はそれ単独で「時相」を充足するので, “他离开家(彼は家を離れる)”は「出来事」を表す。それに続く“好几天(数日間)”は“离开”という行為が終わったあとの経過時間を表している。そして文末の“了<sup>2</sup>”はある時点において「新しい状況が発生」したことを述べる「時態」である<sup>5</sup>。(5) でいえば, 「参照時間」の時点で「彼が家を離れたあとの経過時間が数日にもなった」ということである。つまり「彼が家を離れる」という「出来事」は「私が彼の家に駆けつける」その前に発生している。よって(5)の「出来事時間」は時間軸上「参照時間」の左側に置かれる。以上のことから, (5)の時間軸におけるS、R、Eの三つの時間の相対的位置関係は次の図5のようになる。それを「E—R—S」という「時制構造」で表す。

なお, 以下の図中で図に対応づけられる文中の成分で, 文字囲いされた成分は「発話時間(S)」を指示し, 波線部の成分は「参照時間(R)」を指示し, 太い下線の成分は「出来事時間(E)」を指示し, 二重下線部の成分は「時態」であることを表す<sup>6</sup>。



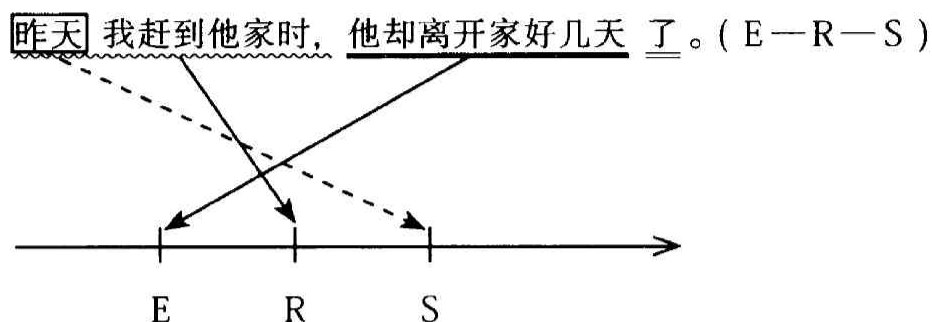


図 5

「E—R—S」の「時制構造」では時間軸上、「発話時間」Sを基準に「出来事時間」Eは左側にある。すなわち「絶対時制」は「過去」である。また「参照時間」を基準に「出来事時間」Eは左側にある。すなわち「相対時制」は「已然」である。よって、「E—R—S」の「時制構造」から(5)の文の「時制」は「已然過去」に確定する。

次の文(6)の「時制」について考えてみる。まず例を見られたい。

(6) 在小三子赶回去以前，现在她妈妈正在收拾屋子。(龚 1995:34)

(三女が駆け戻っていく前に，いま彼女の母親はちょうど部屋の片づけをしているところだ。)

(6)で「参照時間」は“在小三子赶回去以前(三女が駆け戻っていく前に)”が指示する。“在……以前”は「……」の部分をもととしてその前に動作行為が起こったり，ある状況にあるということを表す。つまり“她妈妈正在收拾屋子(彼女の母親はちょうど部屋の片づけをしているところだ)”という「出来事」が起こったのは「三女が駆け戻っていく」その前である。これによって時間軸上「出来事時間」と「参照時間」の位置関係が確定す



る。すなわち、時間軸上「出来事時間」は「参照時間」の左側にある。注意しなければならないのは、“她妈妈正在收拾屋子”が「出来事」を表すのは副詞“正”のはたらきによっているということである。“她妈妈收拾屋子（彼女の母親は部屋掃除をする）”はそれ単独で考えれば、「部屋掃除」という「生活習慣的行為」を述べているにすぎない。副詞“正”は持続する動作行為を「目の当たり」にしていることを表す。つまり“正”は「臨場性」とでも言うべき意味を持っている。この“正”が持つ「臨場性」により、動作行為およびその対象は「特定」ないしは「確定的」になる。「確定的」な動作対象を持つことで動作行為は「ひとまとまり」のものとして捉えることができ、「時相」は充足する。よって(6)の述語部分“收拾屋子”は「生活習慣的行為」ではなく「出来事」として捉えられる。また“正在”は、持続する動作行為がある基準となる時点と同時に行われていることを表す「時態」である。このとき基準となる時点は発話時であっても、それ以外の時点であってもよい。(6)では「部屋を掃除する」という動作行為の「進行」は「発話時間」を指示する“现在(いま)”と同時のものである。なぜなら、別に基準となりえる“在小三子赶回去以前”は「出来事」の発生をそれ以前に求めるからである。以上のことから、時間軸上“现在”が指示する「発話時間」は“她妈妈正在收拾屋子”が指示する「出来事時間」と重なる。またそれらは時間軸上“在小三子赶回去以前”が指示する「参照時間」の左側にある。次の図6に示すような時間軸上の相対的位置関係から、(6)の「時制構造」は「S, E—R」となる。なお、時間軸上及び「時制構造」中のカンマは複数の時間が重なっていることを示している。以下同様。

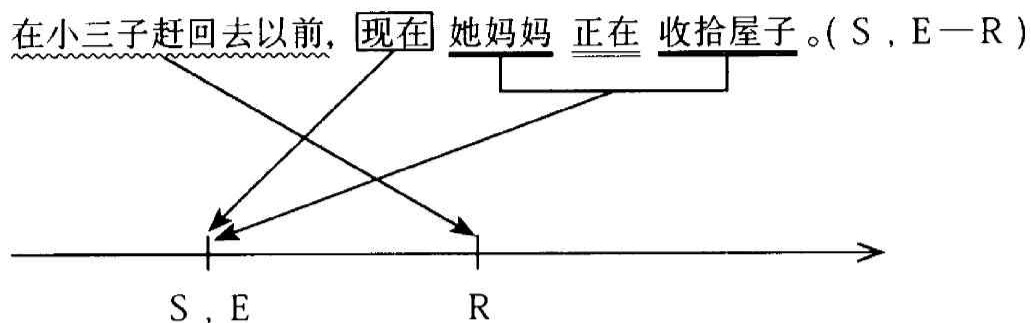


図 6

「S , E — R」の「時制構造」では時間軸上、「発話時間」Sと「出来事時間」Eは重なっているので、「絶対時制」は「現在」である。また「相対時制」は「已然」である。「出来事時間」Eが「参照時間」Rの左側にあるからである。よって(6)の文の「時制」は「已然現在」を表している。

次の(7)の「時制」はどうであろう。例を見られたい。

(7) 等到明天再吃，这些菜就都变质了。( 龚 1995:34)

(明日になって食べるころには、これらの料理はどれもとっくに  
変質してしまっているだろう。)

(7)では“等到明天再吃(明日になって食べるころ)”が「参照時間」を指示する。その中に“明天(明日)”があるので、時間軸上「参照時間」は「発話時間」の右側にあることが確定する。残る「出来事時間」は“这些菜就都变质了(これらの料理はどれもとっくに変質してしまっている)”によって指示される。その述語動詞“变质(変質する)”という変化は瞬間的に達成され、それ単独で「時相」を充足させ、「出来事」となる。この「出来事」に付加している“了”は述語動詞に付加し、かつまた文末にあるの

で、“了 a”と“了 2”があわさったものといえる。“了 a”は変化の「完了」を表し，“了 2”は「ある時点における新しい状況の発生」を表す。この“了 a+了 2”という「時態」が“这些菜变质(これらの料理が変質する)”という「出来事」を時間軸上に配置する。問題はその位置である。ここで“变质”の直前にある副詞“都”に注目する。この“都”は主語“这些菜”の範囲を限定するだけでなく、その後ろにある述語“变质”が表す変化がすでに実現済みであることを述べている。“都”が表す「すでに、とくに」という意味は「出来事」が実現してからある基準となる時点までにいたる経過時間が長いという評価である。つまり“都”が時間軸上「出来事時間」を「発話時間」ないしは「参照時間」の左側に配置するということである。(7)において文末の“了(了 2)”は“等到明天再吃”の時点、すなわち「参照時間」における新しい状況の発生を述べている。よって時間軸上、「出来事時間」は「参照時間」の左側に配置される。以上まとめると、(7)の「時制構造」は時間軸上の S、R、E の相対的位置関係から「S—E—R」となる。それは次の図 7 のように示される。

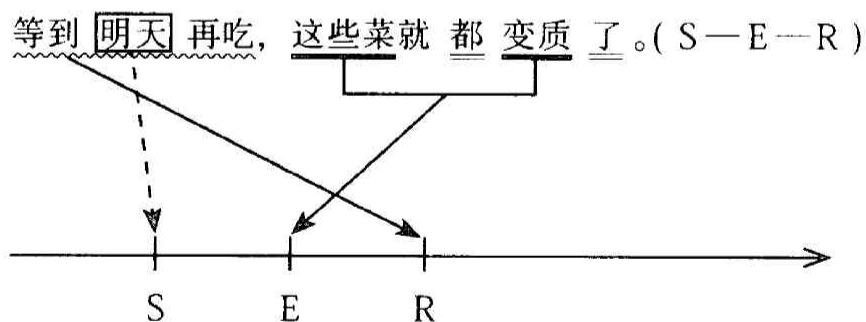


図 7

「S—E—R」の「時制構造」は、時間軸上「発話時間」Sを基準に「出来事時間」Eが右側にあるので、「絶対時制」は「未来」である。一方「参照時間」Rを基準に「出来事時間」Eが左側にあるので、「相対時制」は「已然」

である。よって (7) の「時制構造」 $S-E-R$  から「已然未来」という「時制」が確定する。

次の (8) の「時制」を説明する。

(8) 中秋节过后那几天，他还没有离开这里呢。( 龚 1995:35)

( 中秋節が過ぎたあとのあの数日は、彼はまだここを離れていなかった。)

(8) で「参照時間」を指示するのは“中秋节过后那几天 ( 中秋節が過ぎたあとのあの数日 )”である。指示代詞“那 ( あの )”があるので、時間軸上「参照時間」は「発話時間」より左側に配置される。「出来事時間」は“他还没有离开这里 ( 彼はまだここを離れていない )”によって指示される。述語動詞“离开 ( 離れる )”は非持続動詞で、それ自体で「時相」が充足している。つまり“他离开这里 ( 彼はここを離れる )”は「出来事」を表す。副詞“没有 ( していない )”は「出来事」を時間軸上に配置する「時態」である。“没有”は「出来事」が表す動作行為の発生 ( また場合によっては、「完了」、「過去の経験」、「動作行為の結果の持続」など ) を否定して、ある種の状態を表す。(8) で言う「彼はここにいる」という状態である。この“没有”によって表されるある種の状態はある時点におけるものである。“没有”を「時態」とするゆえんである。そして“没有”の前にある副詞“还 ( まだ )”はその状態がある基準となる時点まで続いていることを意味する。これは裏返せば、“他离开这里”という「出来事」が発生するのは基準となる時点の後ということになる。理論上、基準となる時点には「発話時間」と「参照時間」がある。ただし (8) でその基準となるのは「参照時間」を指示する“中秋节过后那几天”である。なぜなら (8) が発話の時点で「彼はここにはいない」という状況を記述するのに対し、「発話時間」

を基準の時点とすると、発話の時点で「彼はまだここにいる」ことを表し、それは (8) が記述する状況と矛盾するからである。以上のことから、時間軸上「出来事時間」は「参照時間」と「発話時間」の間に配置せざるをえなくなる。(8)において、S、R、Eの時間軸上の相対的位置関係は次の図8のように示される。これにより(8)の「時制構造」は「R—E—S」となる。

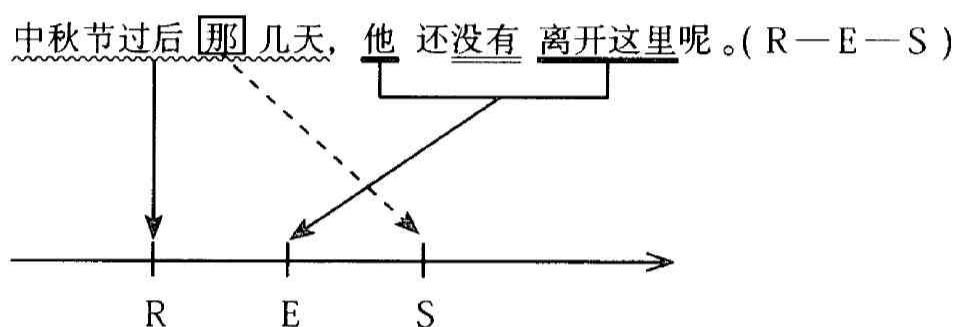


図8

この「時制構造」では「発話時間」Sと「出来事時間」Eによってきまる「絶対時制」は「過去」であり、「参照時間」と「出来事時間」Eによってきまる「相対時制」は「未然」である。よって文(8)の「時制」は「未然過去」である。

(9)の「時制」を説明する。

(9) 上个月他就说，今天会发生事故的。(龚 1995:35)

(先月彼は、「今日事故が起こるだろう」と言っていた。)

「発話時間」は“今天(今日)”によって指示され、「参照時間」が“上个月(先月)”によって指示されるので、「参照時間」は「発話時間」の

左側に配置される。「出来事時間」は“发生事故 (事故が起こる)”によって指示される。述語動詞“发生 (発生する)”は瞬間的に達成される変化である。よって“发生”は単独で「充足した時相」を形成し，“发生事故 (事故が起こる)”は「出来事」を表す。(9)の“会”は「将来」において、ある「出来事」や状況が発生するという「可能性」を述べる「時態」である。“会”の付加により，“发生事故”が表す「出来事」を時間軸上に配置する。問題はその位置である。“发生事故”は「発話時間」を指示する“今天”とともに“说 (言う)”の命題の中に現れている。すなわち、「出来事時間」は「発話時間」と重なる。これにより，“会”が表す「将来」は「発話時間」を基準とする可能性は否定され、「参照時間」を基準とせざるをえなくなる。また、「参照時間」を基準とする、将来を表す可能な「出来事」の位置関係には、「発話時間」の前、「発話時間」と同時、「発話時間」の後の三種類があるが、上に述べた前提により、ひとつ(「発話時間」と同時)に絞られる。かくして、(9)の「時制構造」は「 $R-S, E$ 」となる。(9)の「時制構造」は次の図9のように図示できる。

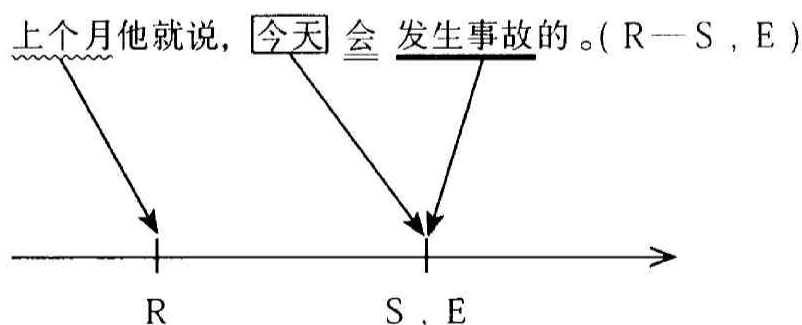


図9

(9)の「時制構造」 $R-S, E$ は、時間軸上「発話時間」 $S$ が「出来事時間」 $E$ と重なり、「参照時間」 $R$ の右側に「出来事時間」 $E$ があることを示す。つまり「絶対時制」は「現在」であり、「相対時制」は「未然」

である。よって (9) の文の「時制」は「未然現在」を表す。

次の (10) の「時制」を説明する。

(10) 当你明天动身的时候, 我可能还没有动身。(龚 1995:35)

(君が明日出発する頃, 私はたぶんまだ出発していないでしょう。)

「参照時間」は“当你明天动身的时候 (君が明日出発するとき)”によって指示され, その中に“明天 (明日)”があるので, 「参照時間」は時間軸上「発話時間」の右側に配置される。「出来事時間」は“我可能还没有动身 (私はたぶんまだ出発していないでしょう)”によって指示される。述語動詞“动身 (出発する)”は瞬間的に達成される動作行為である。すなわち, “我动身 (私は出発する)”は単独で「時相」を充足し, 「出来事」を表す。その直前に付加している“没有 (していない)”はその動作行為の発生 (および完了) を否定して, “没有动身”で「(その場に) いる」という状態を表している。さらにその直前に付加している“还”はある基準となる時点まである種の動作行為や状態が続いていることを表す。すなわち“我还没有动身”は「私はある時点までその場にいます」ことを意味している。逆から言えば, “我动身 (私が出発する)”という動作行為の発生 (および完了) は基準となる時点の後のことになる。つまり (8) の“没有”と同様, ここでの“没有”も「時態」である。“可能”は通常「将来」の「可能性」と「以前」の「可能性」の両方を表すことができるが, ここでは主語が発話者“我”なので, 「将来」の「可能性」しか表せない。つまり“我动身”は「将来」においての「出来事」であることが求められる。発話の時点ではまだ出発していないことは発話者自身が認識しているので, 「出来事」の発生が「発



話時間」の後にあることは明白である。問題は「出来事」の発生が“当你明天动身的时候”によって指示される「参照時間」の以前かそれとも以後かということである。結論からいえば、「出来事」の発生は以後のものである。なぜなら“我可能还没有动身”は「参照時間」における記述だからである。試みに“我动身”という「出来事」が「参照時間」の以前（「発話時間」の以後）に発生したと仮定しよう。すると「参照時間」の時点ではすでに発話者“我”はその場にはいない。これは文(10)が述べている状況と矛盾する。よって時間軸上“我可能还没有动身”が指示する「出来事時間」は「参照時間」の右側に配置せざるをえない。以上のことから、(10)のS、R、Eの時間軸上における相対的位置関係を「S—R—E」という「時制構造」で示すことができる。それを次の図10のように図示する。

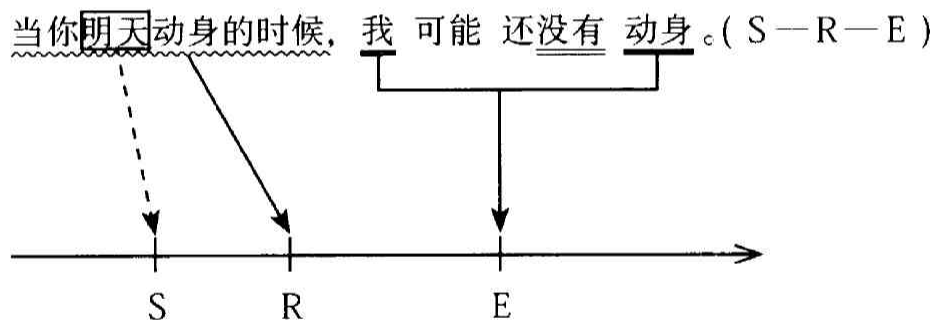


図10

(10)の「時制構造」から、「発話時間」Sを基準に「出来事時間」Eを観察した「絶対時制」は「未来」で、「参照時間」Rを基準に「出来事時間」Eを観察した「相対時制」は「未然」であることがわかる。よって文(10)の「時制」は「未然未来」を表す。

次の(11)の文の「時制」を考えてみよう。

(11) 那年冬天, 祖母死了, 父亲的差使也交卸了。( 龚 1995:35)

(その年の冬, 祖母は亡くなり, 父も左遷で役職を引き継ぐことになった。)

「参照時間」は“那年冬天(その年の冬)”が指示する。指示代詞“那(その)”は通常前に現れた事物を再度指示するときに用いるので, “那年冬天”は過去のある時点を指示している。よって「参照時間」は時間軸上「発話時間」の左側に配置される。「出来事時間」は“祖母死了, 父亲的差使也交卸了(祖母は亡くなり, 父も左遷で役職を引き継ぐことになった)”に指示される。“祖母死了, 父亲的差使也交卸了”には“祖母死(了)(祖母が亡くなる)”と“父亲的差使交卸(父が左遷で役職を引き継ぐ)”というふたつの「出来事」がある。前者を e1, 後者を e2 としよう。e1 “祖母死”の述語“死(死ぬ)”は瞬間的に達成される変化を表す動詞である。よってそれ自体で「時相」を充足し, 「出来事」となる。e2 “父亲的差使交卸”の述語“交卸(引き継ぐ)”は内部に動作行為の終結点を持つので, やはり単独で「充足した時相」を形成し, 「出来事」となる。(7) の“了”と同様, この e1 と e2 にそれぞれ付加している“了”は述語動詞の直後にありかつまた文末にもあるので“了 a”と“了 2”が結合した「時態」といえる。“了 a”は e1 において変化の「完了」を表し, e2 において行為の「完了」を表す。また“了 2”はふたつの「出来事」が実現した後の状態が「参照時間」において発生したことを表している。つまり e1 と e2 によって表されるふたつの「出来事時間」は時間軸上ともに「参照時間」と重なって配置される。以上のことから, (11) の「時制構造」は「R, E—S」となる。「時制構造」 「R, E—S」によって表される時間軸上の相対的位置関係は次の図 1 1 のように示される。なおふたつの「出来事」 e1、e2 はあわせて「E」とした。

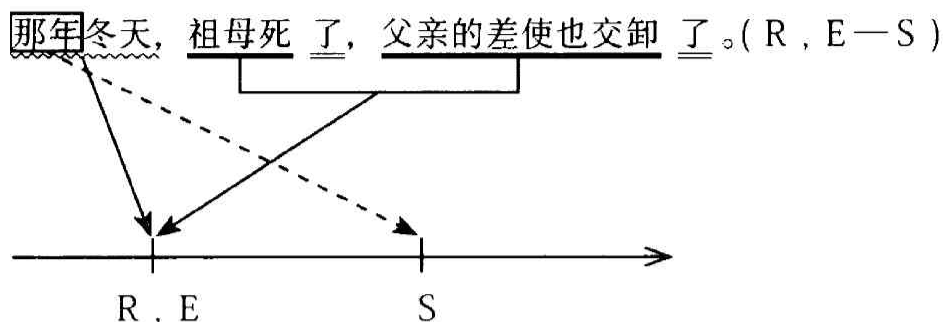


図 1 1

「時制構造」「R, E—S」は、「発話時間」Sを基準に「出来事時間」Eは時間軸の左側にあり、「参照時間」Rは「出来事時間」Eと重なっている。すなわち「絶対時制」は「過去」で、「相対時制」は「単純」である。よって「R, E—S」の「時制構造」を持つ(11)の文の「時制」は「単純過去」に確定する。

次に(12)の文の「時制」を説明しよう。

(12) 现在这个时候，他正在伏案工作。(龚 1995:35)

(いま(このとき)，彼はちょうど机に向かって仕事をしている  
ところです。)

「発話時間」は“现在(いま)”によって指示される。「参照時間」は“这个时候(このとき)”が指示する。このふたつの時間表現は同格関係にある。つまり時間軸上、「発話時間」と「参照時間」は重なって置かれる。「出来事時間」は“他正在伏案工作(彼はちょうど机に向かって仕事をしているところです)”によって指示される。述語動詞“工作(働く)”は持続動詞で理論上永遠に続く動作を表す。さらにその前に状況語“伏案(机に向かって)”が付加し“伏案工作(デスクワークする)”という「習慣的行為」を

表している。ところが“正”が持つ「臨場性」によって、その動作行為は「特定の」ないしは「確定的な」ものとなる。これにより“伏案工作”は「デスクワーク」という「習慣的行為」ではなく、「充足した時相」となる。すなわち“正在伏案工作”は進行中の「出来事」を表している。(6)の例でも述べたように、「進行」は「発話時間」あるいは「参照時間」を基準として、それと同時に動作行為が行われていることを表す。(12)ではすでにそのふたつの時間は時間軸上重なっている。よって「進行する出来事」が指示する「出来事時間」も時間軸上「発話時間」、「参照時間」と重なる。以上のことから、(12)の時間軸における三つの配置状況は次の図12のようになる。その位置関係は「S, R, E」という「時制構造」として示される。

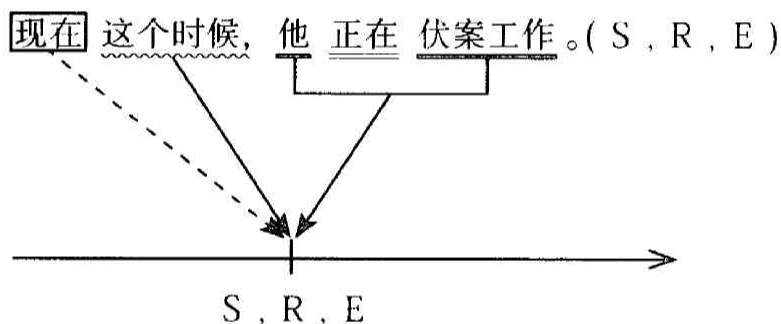


図12

「S, R, E」の「時制構造」は「発話時間」Sと「出来事時間」Eが重なっているので、「絶対時制」は「現在」である。また「参照時間」Rと「出来事時間」Eも重なっているので、「相対時制」は「単純」である。よって(12)の文の「時制」は「単純現在」に確定する。

最後に(13)の文の「時制」を説明する。

(13) 下个月中旬，我出差到江南去。( 龚 1995:35)

( 来月の中旬，私は江南に出張にいくでしょう。)

「参照時間」は“下个月中旬(来月の中旬)”によって指示される。その中に“下个月(来月)”があるので、時間軸上「参照時間」は「発話時間」の右側に置かれる。「出来事時間」は“我出差到江南去(私は江南に出張にいく)”が指示する。述語動詞“出差(出張する)”は持続動詞である。“到江南(江南に)”が「着点」を表し、「時相」を充足するので、“出差到江南(江南に出張する)”は「出来事」を表す。(13)には「時態」を表す成分が明示されていないが、“我出差到江南去”はそれ単独で「予定」を述べることができる<sup>7</sup>。「予定の出来事」はつねに「将来」においてのものである。時間軸上「将来」の位置にあるのは“下个月中旬”が指示する「参照時間」である。よって“我出差到江南去”が表す「予定の出来事」は「参照時間」において実現する。つまり時間軸上「出来事時間」は「参照時間」と重なる。以上のことから、(13)の時間軸上における相対的位置関係は次の図13のようになる。その位置関係は「S—R, E」という「時制構造」で表される。

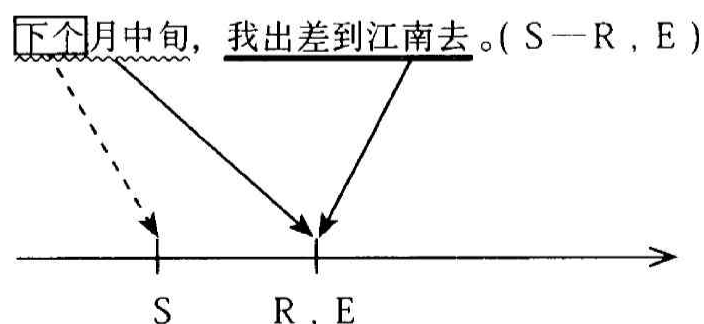


図13

「S—R, E」の「時制構造」では、「出来事時間」Eは「発話時間」S

の右側にあり、「絶対時制」は「未来」である。一方、「参照時間」Rと「出来事時間」Eは重なっているので「相対時制」は「単純」である。よって「S—R, E」の「時制構造」を持つ文(13)の「時制」は「単純未来」を表す。

以上、本章では(5)-(13)の九つの文を例に、可能な九種類の時制構造がいかに関形成され、そしてそれぞれの文の「時制」がどのように確定されるかを説明した。

#### 4. おわりに

本稿では、「発話時間」、「参照時間」、「出来事時間」の三つの時間によって、中国語の文の「時制」が確定されることを論じた。この「時制」が確定される過程から、それがたんに中国語の「時制」を明らかにするだけでなく、私が仮定する中国語の時間体系の形成とも深く関わっていることが明らかになった。概括して言うと、それは次のような過程である。まず「時相」で「出来事」が形成される。次に、その「出来事」が「時態」の意味と結合して、時間軸上に配置される。さらに「参照時間」が与えられ、時間軸上における「発話時間」、「参照時間」、「出来事時間」の相対的位置関係を表す「時制構造」を得る。最終的に、その「時制構造」から文の「時制」が確定する。

本稿で論じた時間体系の枠組みは、大筋において、説得的であると確信しているが、まだ細部において、説明が不十分であったり、議論の対象外とした部分があり、全面的でないことも事実である。よって、今後はそれらの点の克服が課題となろう。また、この中国語の時間体系についての理論をモデル理論的枠組みによって定式化するという取り組みも必要である。

## 注釈

1. Reichenbach(1974) は「発話時間 ( 発話の時点 )」に対する「参照時間 ( 言及の時点 )」の位置から、「過去」・「現在」・「未来」を区分し、「参照時間 ( 言及の時点 )」に対する「出来事時間 ( 事象の時点 )」の位置から、「以前」・「単純」・「以後」を区分する方法をとっている。しかし、後の議論で見ると、中国語では「発話時間」と「参照時間」それぞれに対する「出来事時間」の位置から「時制」が確定する。
2. ここで「出来事」は Parsons(1990) の “Events” という概念に依っている (Parsons1990: 20-21)。これは単文に対する伝統的な四分類のうち、Accomplishments と Achievements を含めたものに相当する。前者は自然の終結点を持つことに、後者は瞬間性に特徴がある。
3. 結果補語のほか、動量補語、時間量補語、数量補語などの「量」を表す語彙成分も「時相」を充足させるはたらきがある。たとえば、( i ) では「動作量」を表す動量補語“一次 ( 一度 )”によって、“看”が表す行為の「量」が確定し、“看一次 ( 一度見る )”で「時相」が充足している。同様に ( ii ) では「時間量」を表す時間量補語“一个小时 ( 一時間 )”によって“看”の「時間量」が確定し、「充足した時相」となっている。( iii ) は行為対象“书 ( 本 )”の「数量」が限定 (“三本 ( 三冊 )”) されている場合である。この場合も述語“看”が表す行為は「ひとまとまり」になる。さらに ( iv ) に見るように、行為対象が固有名称をもつ特定指示物“电影《霸王别姬》( 映画『霸王别姬』)”であっても「時相」を充足させる。

( i ) 看一次 ( 一度見る )

( ii ) 看一个小时 ( 一時間見る )

( iii ) 看三本书 ( 三冊の本を読む )

( iv ) 看电影《霸王别姬》 ( 映画『霸王别姬』を見る )

4. 動詞の接尾語である“了 l”“过”“着”は「時態」としてはたらくものと「時相」の中に現れるものの二種類がある。両者を区別するため、本稿では「時態」の“了 l”“过”“着”を“了 a”“过 a”“着 a”と表記する。一方、「時相」の中に現れるものは“了 p”“过 p”“着 p”のように表記する。それぞれの意味は次のとおりである。



「時態」の“了 a” “过 a” “着 a”

- ・“了 a” … 「～してしまった」(動作行為の完了)
- ・“过 a” … 「～したことがある」(過去の経験)
- 「～した」(過去における「出来事」の発生)
- ・“着 a” … 「～している」(動作行為の結果の持続)

「時相」の“了 p” “过 p” “着 p”

- ・“了 p” … 「～し終わる」(動作行為のおわり)
- ・“过 p” … 「～し終わる」(動作行為のおわり)
- ・“着 p” … 「～している」(動作行為そのものの持続)

5. 本稿では、文末の“了”も「時態」と見なし、“了 2”と表記する。
6. 文字囲いされた成分は時間軸上の「発話時間」を指示するが、(1)のようにその成分が「発話時間」そのものに対応しない場合は虚線で示した。
7. 龚(1995)によれば、将来を表す副詞“将”あるいは“要”を挿入することができる。

## 参考文献

- 陈平. 1988 年. 论现代汉语时间系统的三元结构. 《中国语文》第六期. pp. 401-422
- Comrie, Bernard. 1985. *Tense*. Cambridge: Cambridge University Press
- 龚千炎. 1991 年. 谈现代汉语的时制表示和时态表达系统. 《中国语文》第四期. pp. 251-261
- 龚千炎. 1995 年. 《汉语的时相时制时态》. 北京: 商务印书馆
- 蒋严・潘海华. 1998 年. 《形式语义学引论》. 北京: 中国社会科学出版社
- 李临定. 1990 年. 《现代汉语动词》. 北京: 中国社会科学出版社
- 李铁根. 1999 年. 《现代汉语时制研究》. 沈阳: 辽宁大学出版社
- 陆俭明・马真. 1985 年. 关于时间副词. 《现代汉语虚词散论》. 北京: 北京大学出版社
- 吕叔湘. 1982 年. 《中国文法要略》(再版). 北京: 商务印书馆
- 马庆株. 1992 年. 《汉语动词和动词性结构》. 北京: 北京语言学院出版社
- Parsons, Terence. 1990. *Events in the Semantics of English: A Study in Subatomic Semantics*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press

Reichenbach, H. 著・石本新訳．1982 年．『記号論理学の原理』．東京：大修館書店

(*Elements of Symbolic Logic*. 1947. New York: Free Press)

杉村博文．1994 年．『中国語文法教室』．東京：大修館書店

Vendler, Zeno. 1967. *Linguistics in Philosophy*. Ithaca, New York: Cornell University Press

ヤーホントフ, C.E. 著, 橋本萬太郎訳．1987 年．『中国語動詞の研究』．東京：白帝社

朱德熙．1982 年．《语法讲义》．北京：商务印书馆